

## CONTENTS

- 1 ●令和4年度(2022年度)のFD活動を振り返って
- 2~4 ●FD研修参加報告
- 5 ●FD活動報告記録

- 6~7 ●令和4年度(2022年度)全学FD研修実施一覧
- 8 ●令和4年度(2022年度)FD活動報告

## 令和4年度(2022年度)のFD活動を振り返って

FD担当副学長 古屋 健

近年、本学でも全学教育推進センターや各学部・学科におけるFD活動への取り組みに加え、学内の各センター等で実施する全学対象のFD研修が数多く開催されるようになりました。今後、FD・SDの高度化を進める上でも、多様な内容でFD研修を開催することが重要になってくるものと予想されます。しかし、これまでは、各センター等で開催している全学対象のFD研修について、案内する時期や方法が統一されていなかったため、教職員が参加計画を立てにくい状況がありました。そこで、今年度より、FD研修の情報を全学教育推進センターに集約し、Teamsを使って全学対象のFD研修の概要を効率よく周知できるようにいたしました。Teamsにある「FD\_News」というチャンネルです。全教職員がアクセスできますので、時間があるときに覗いてみてください。また、このチャンネルでは開催予定のFD研修案内だけでなく、動画配信されてオンデマンドで視聴できる過去のFD研修についても紹介しています。このチャンネルの活用を通して、本学のFD活動の幅が広がることを期待しています。

さて、令和4年度のFD年間テーマは、「教育の質保証に向けた取り組みの実質化」でした。本学では令和2年に各学部の、令和3年に各研究科のアセスメント・ポリシー(学修成果の評価方針)を策定し、機関レベルおよび教育課程レベルのアセスメントが実施されるようになりました。これによって本学における教育の質保証に向けた取り組みの大枠がほぼ完成しました。しかし、仕組みが整っていても、正しく教育成果の達

成度を測定・評価できていなければ、適切に教育を改善へとつなげていくことはできません。そこで、本年度から、本学では〈関心・意欲・態度〉や〈思考・判断・表現〉領域における学修成果の把握を目的に、外部アセスメントツ



ールを導入することになりました。7月28日に開催した全学FD研修「教学マネジメント推進と外部アセスメントについて～GPS-Academicの効果的な活用を考える～」では、株式会社ベネッセiキャリアの小田桐一弘様にGPS-Academicの内容の解説だけでなく、他大学での活用の様子なども紹介して頂きました。大学に対する「学修成果の可視化」への要求が年々強まる中、これからは本学のディプロマ・ポリシーの内容を踏まえた、独自の活用方法を開発していく必要があります。また、全学レベルでの活用だけでなく、各学部・学科でも計画的な活用を進めていただきたいと思います。なお、この時のFD研修の様子もオンデマンドで視聴可能です。Teamsのチャンネルからご案内しますので、参加できなかった方は、是非、ご覧ください。

来年度から立正大学第2期中期計画がスタートします。中期計画に盛り込まれたアクションプランの実現に向けてこれからもFD活動を活性化していきたいと思っています。教職員の皆様のご協力をお願いいたします。

2021年12月18日 全学FD 研修会「新学習指導要領と2025年度入試」

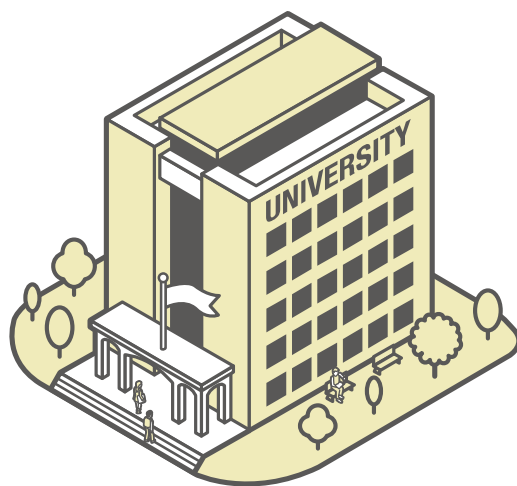
2021年12月18日に開催されたFD研修会「新学習指導要領と2025年度入試」では、リクルート進学総研所長・リクルート「カレッジマネジメント」編集長である小林浩氏より「高大接続改革の狙いと方向性～2025年入学生に向けた入試改革～」、本学入試センター長(当時)の永井智氏より「学習指導要領改訂を受けた本学の課題」というテーマで講演がなされた。本稿では、主に小林氏の講演の主題である高大接続におけるその主旨と課題について報告したい。

小林氏によれば、高大接続とは、一見したところ高校と大学の接続面である「入試」の改革であるように思われるが、そうではなく、「高校教育・大学教育・大学入学者選抜の三位一体となった教育改革」として捉えねばならない。旧来の社会では知識の「習得」と「再生」という【情報処理力】が重視されていたのに対して、これからの社会では知識・技能の「活用」という【情報編集力】が重視されるため、主体的・能動的に「生涯学び続ける人＝アクティブ・ラーナー」の養成が求められている。そのためには、知識・技能の習得(学力の要素①)だけではなく、習得した知識や技能を基に答えが一つではない問題に、自ら答えていく思考力・判断力・表現力等の能力(学力の要素②)、そして①や②を習得するためにも、主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度(学力の要素③)を身に付ける必要がある。以上のような能力を習得するために、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜という三つを一体的に改革しようというのが、高大接続の主旨であるとされた。

さらに、高校での学びは、教育内容(教科・科目等)の見直し、学習・指導方法の改善や教員の指導力を向上させるための研修、多面的な評価の推進などの点で改革がなされている。それに合わせて、大学においても、建学の精神を基にした教育の理念に照らして、それぞれの大学の独自性・個性を明確にしたうえで、入学から卒業まで一貫した教学マネジメントを実施していく必要があるとされた。具体的には、社会へどのような卒業生を送り出したいのかを、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)として明示し、そのような者の育成は、どのような教育によって可能であるのかを提示するカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)、そしてそのような教育を行うために、どのような学生に入学してほしいのか、そしてそれをどのように評価・判定するのかを明示し、「受験生へのメッセージ」となるようなアドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)を提示し、実施しなければならないとされた。

共通テストや一般選抜では、学力の三つの要素のうち、①の知識・技能については評価することができるが、②の思考力・判断力・表現力や③の主体性・多様性・協調性の評価に適しているとは言えない。そこで、大学個別の入試選抜、特に総合型選抜では、②や③の要素を評価することが求められている。今後は、選抜を通じて大学と自身について知ることでミスマッチを低減させ、学習意欲を高めることができるような「相互選択型(マッチング型)」の入試が増加するとされた。

永井氏による「本学の課題」についての講演も含めて、本学のみならず、あらゆる大学、そして日本の教育全体の状況とその課題について見通しをよくするような、FD研修会であったといえる。しかし、主体的・能動的に「生涯学び続ける人＝アクティブ・ラーナー」を養成するという課題は、どれほど達成されているだろうか。ベネッセ教育総合研究所の調査「第4回 大学生の学習・生活実態調査」(2022年7月)で明らかとなったのは、2008年から2021年へかけて、大学生が学びに対してむしろ消極的・受動的となっていることであり、現状の大学教育は「生涯学び続ける人＝アクティブ・ラーナー」を養成するという要請に答えきれていないといえる。これは本学の課題であるとともに、大学教育全体に関わる課題であるといえるだろう。







2022年7月8日 地球環境科学部 FD 研修会「文理融合型データサイエンス授業構築の実践事例」

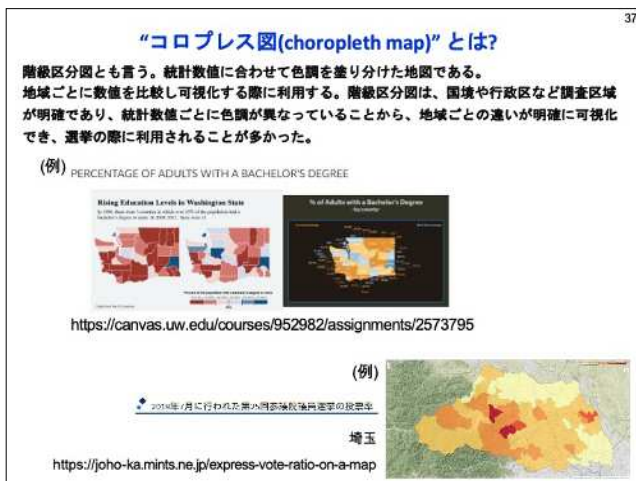
この原稿を書いている2022年7月現在、本学では、文部科学省により創設された「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への申請に向けた準備が進められている。そのような背景もあり、地球環境科学部および地球環境科学研究科では「文理融合型データサイエンス授業構築の実践事例」と題したFD 研修会を企画し、文理融合型のデータサイエンス授業に詳しい大阪公立大学 研究推進機構 辻 智 特任教授をお招きし、講演して頂いた。

私自身、教育・研究を通じて多くのデータを取り扱うことがあるものの、今からの学生がAIに関してどのような知識を持っておかななくてはならないのかはよく理解できていなかった。今回、AIに関する様々な授業事例の紹介を見て、自分自身誤った認識を持っていたことを痛感させられた。一言で言えば、難しく考えすぎていたことに気づかされたということである。

辻先生の実践例は、講義とは言え、演習的な内容も取り入れられており、文系学生のAIに関する興味を引き出す工夫が施されていた。例えば、顔認証技術によって、2枚の顔写真の類似度を表示するコンテンツを紹介したところ、仏像の顔写真の類似性を調べ、そのルーツ探るなど、教員が思っていた以上に興味を持ち、想像を超える使い方をする学生がいたとの話であった。これは、やり方さえ説明すれば、学生自身が面白がっているいろいろな使い方をあみ出すことを暗示している。この話を聞いて、このような取り組みを重ねて、学生は社会に出た際に役に立つ知識を自然と身につけていくのだろうと思った。

最後にある学生の言葉として紹介されたコメントを紹介してこの報告を終えたいと思う。「膨大なデータを活用するというのはロマンがあって楽しみ」。

辻 智先生の講演資料より



# FD 活動報告記録

## 教学マネジメント推進と外部アセスメント～GPS-Academic の効果的な活用を考える～

法学部 教授 丸山 泰弘

2022年7月28日に株式会社ベネッセキャリア「大社接続営業部」の小田桐一弘さんをお招きして、「教学マネジメント推進と外部アセスメント～GPS-Academic の効果的な活用を考える～」をテーマにFD研修が行われました。内容としては、教学マネジメント推進や認証評価に関わる部分で、外部環境変化の要点を整理するとともに、外部アセスメントをどのように活用していくのかについて考えるものとなりました。

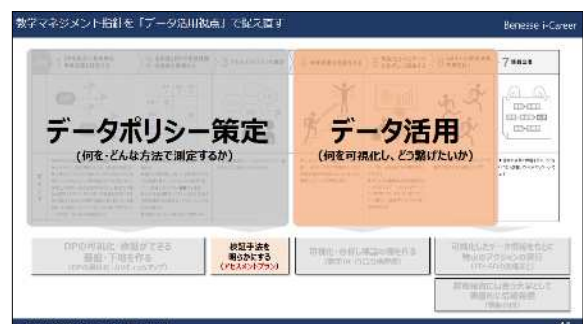
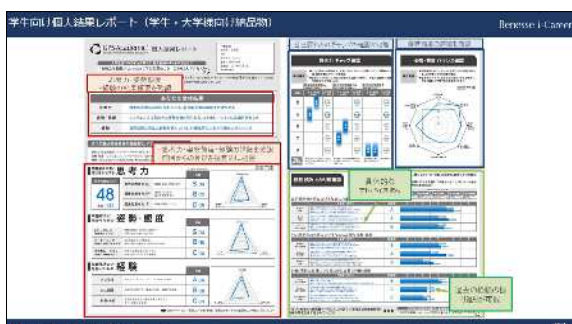
各学部で教学を担当する教員や事務職員をはじめ、これからの大学関係者としては知っておかなければならないことの1つに、DPとの関係で卒業要件を満たすにあたり、各学部の単位認定や卒業判定以外に、学生が入学直後から卒業までにどのように成長したのかを可視化しなければならないというのがあります。特に、学内の基準だけでなく外部アセスメントを利用したものが求められていて、大学としてどのように取り組むのが議論されています。本学ではその一環として2022年度からGPS-Academicを導入し、全学部で受験できるようになっており、学生それぞれがの強みや弱点、そして複数年度に渡って取り組むことで成長の過程が可視化できるようになっています。

これらは、文部科学省や自己点検等との関係で導入する必要があるという側面だけでなく、学生自身も大学4年間でどのように成長できたのかを自分たちで確認することができ、学年が上がるにしたがって自分に足りない部分を把握し、どこに力を入れるべきなのか計画を立てやすくなるというメリットがあります。そして、それらがその後の就職活動にも活かされ、どこが

自分の強みとなるのか客観的に説明できる素材として利用されることが期待されています。

また、教員サイドとしては、これまで各教員が授業を行うにあたり経験や肌で感じてきた学生の成長について、事例として紹介するにとどまらず、今後はそのエビデンスの1つとして機能することも期待されており、それらが新カリキュラム作成や時間割の作成、年度末・年度始のガイダンスのあり方や、入試が目指している入学者の学生像と教務が目指している学生の成長の度合いが可視化できるのではないかと期待も持てるものになっています。

近年、大学のあり方が（良いか悪いかは別として）問われるようになっていきます。従来の「大学としてのあり方」を重視する先生方からはこういった外部のアセスメントを導入することに懐疑的な方もいらっしゃるかもしれません。しかし、今回のFD研修では、研究と教育に集中しがちな大学教員には分かりづらい部分でもある認証評価についても併せて説明していただき、なぜ外部アセスメントを導入する必要があるのか、それが大学・学生・教員にとってどのようにメリットとして活かせるのかが語られたことが個人的には収穫でした。残念ながら出席が叶わなかった方々は動画配信で視聴可能ですので視聴されることをお勧めします。とくに、こういったFD活動に注目してこなかった先生や、文部科学省との関係で大学がどうあるべきか問われていることについてご存じない方こそ視聴していただくのが良いかと感じています。



## 令和4年度(2022年度)全学FD研修実施一覧

開催日	主催	内容	開催形態	教職員参加者数
6月30日(木)	自己点検・評価委員会	<p>研修名：令和4年度内部質保証および大学評価に関する全学研修会</p> <p>概要：第三期の認証評価を踏まえた大学としての今後の取組みを踏まえ、認証評価制度や内部質保証をめぐる今後の動向について説明。また、大学評価を受審した他大学の教職員より、受審直前の大学がすべき対応やポイント等についても説明した。</p>	対面& オンライン	65名
7月8日(金)	地球環境科学部	<p>研修名：文理融合型データサイエンス授業構築の実践事例</p> <p>概要：データサイエンスの世界的なブームが今も続いている。そのブームが欧米と比べて遅れてきた日本においても、2021年に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」が文部科学省により創設されたことは記憶に新しい。初年度の昨年は、全国で78の大学・短大・高専がリテラシーレベルに認定されたが、今年度はその上位の応用基礎レベルへの申請も始まった。本講演では、演者が8年前より先行していくつかの大学で実践してきた文理融合型のデータサイエンス授業に関して、リテラシー・応用基礎の両認定レベル申請に役立つような授業実践事例を紹介するとともに、体制づくりなどのマネジメント的な側面についても言及した。</p>	対面& オンライン	17名
7月28日(木)	全学教育推進センター	<p>研修名：教学マネジメント推進と外部アセスメントについて</p> <p>概要：GPS-Academicの効果的な活用を考える～教学マネジメント推進や認証評価の実施等、外部環境変化の要点を情報整理するとともに、その中で外部アセスメントをどう活用していくべきかについて考える機会となった。本学においても、学修成果の達成度の検証を行う一つの手法としてGPS-Academicを導入するため、受検率の向上をどう果たすのか、効果的な活用をどう実現していくべきか、具体事例とともに情報発信を頂くことで、知見を得る場となった。</p>	オンライン	18名
10月25日(火)	情報環境基盤センター	<p>研修名：教職員・学生へのセキュリティ教育について</p> <p>概要：昨今、DX（デジタル・トランスフォーメーション）が様々な場面で急速に推進されているが、大学においても教育に関するDXの推進は至上命題となっている。DXを推進する過程では秘匿性のあるデータを扱わざるを得ない機会も増加するが、集まったデータを適切に解析することで、たとえば学生の学修効率の増大を促すことが期待できる。一方で秘匿性の高いデータはその取り扱いについて最新の注意を払わなければならない。データの適切な管理・運用のためには予め情報セキュリティ教育を受けておく必要がある。情報環境基盤センターでは、本学の教育DX推進の機運醸成を目指していくために、エビデンスに基づくDX教育の最新動向と具体的な事例を教職員へ還元する機会となった。</p>	オンライン	19名



～11月30日	図書館	<p>研修名：インストラクショナルデザインとは</p> <p>概要：「インストラクショナルデザインとは」というタイトルでインストラクショナルデザイン研究の第一人者である早稲田大学教授の向後千春先生の講演映像を共有した。今年度、本学図書館が私立大学図書館協会の研修会に関する理事校をしており、講演会を主催し、その際の録画映像である。講演会で挨拶した小浜図書館長より、FDにも非常に参考になる内容なので、本学内の教職員にも視聴を推奨したい旨の意向があった。</p>	オンライン	7名
12月17日(土)	入試センター	<p>研修名：これからの高大接続と大学に求められる変化</p> <p>概要：今年度より高等学校の新しい学習指導要領がスタートし、2025年度入試（2024年実施）が新課程における初年度入試となる。この変化をチャンスと捉え、今後の入試や高大接続の在り方を議論していくための基本的な知識の共有を図る機会となった。</p>	オンライン	47名
1月19日(木)	全学教育推進センター	<p>研修名：令和4年度外部アセスメント（GPS-Academic・1年生向け）報告会</p> <p>概要：今年度実施したGPS-Academic（1年生向け）の結果データについて報告。全学1年生の集計データのみならず、学部ごとの集計データ等を共有し、今後、本学でGPS-Academicを有効に活用していくための議論の素材を提供した。</p>	オンライン	35名
2月10日(金)	国際交流センター	<p>研修名：危機管理セミナー</p> <p>概要：海外派遣における危機管理について講演。海外派遣留学の再開にあたっての安全対策、海外派遣再開における大学が負う責任と準備すべきポイント、事前の安全指導と必要な準備、等について具体的事例も基に一緒に考える機会となった。</p>	オンライン	17名
2月24日(金)	データサイエンスセンター	<p>研修名：IPUMS-I データの利用と日本のデータとの調和</p> <p>概要：UMS-International（イパムス/International Integrated Public Use Microdata Series）とは、資格要件を満たしたすべての研究者に無償で利用が許可されている、ミネソタ大学人口センターにある世界最大の人口データベースである。本研修会ではIPUMSの紹介と、授業等への活用方法などの情報提供を行った。</p>	オンライン	12名
3月1日(木)	障害学生支援協議会	<p>研修名：国立大学における障害学生支援の実際</p> <p>概要：障害者差別解消法改正法施行を2年後に控え、私立大学においても合理的配慮の提供が義務化される。法制定後、障害学生に対する支援体制の整備は一定程度進んできた反面、学生に対応する教職員の意識向上は喫緊の課題である。すでに合理的配慮の提供が義務化されている国立大学の事例を聞き、合理的配慮提供の義務化に向けて本学での障害学生支援について考える機会となった。</p>	オンライン	29名
3月10日(金)	図書館 (共催：研究推進・地域連携センター)	<p>研修名：立正大学学術機関リポジトリ説明会—研究成果の公開とオープンアクセス—</p> <p>概要：オープンアクセスへの理解向上と促進に取り組むため、オープンアクセスを取り巻く状況を整理し、立正大学学術機関リポジトリの概要・実際の登録作業について説明した。これにより、リポジトリの公開作業に携わる方や公開を検討されている方への良い情報提供の機会を持つことが出来た。</p>	オンライン	23名

# 令和4年度(2022年度)FD活動報告

## 〈全学FD研修以外の主な活動内容〉

5月30日	令和4年度第1回FD委員会開催
6月30日～7月31日	令和4年度新入生アンケート実施
7月4日～16日	令和4年度第1期授業改善アンケート実施
12月5日～17日	令和4年度第2期授業改善アンケート実施
12月19日	令和4年度第2回FD委員会開催
1月4日～2月28日	令和4年度学修成果・満足度調査実施(卒業生)
2月20日	令和4年度第3回FD委員会開催
3月24日～4月8日	令和4年度学修成果・満足度調査実施(在校生)
3月24日～4月8日	令和5年度新入生アンケート実施(GPS-Academicを活用)



## 編集後記

Vol.28は、昨年度および今年度で開催されたFD活動への参加報告記を中心に作成いたしました。今回編集に携わり、本学のFD活動が充実していることを改めて実感いたしました。今年度より、Teams上で過去のFD研修会動画や資料を閲覧できるようになりま

したので、このFD News Letterが教職員の方々のFD活動への積極的な参加を促す媒体となれば幸いです。ご執筆いただきました先生方、FD News Letter部会の皆様ご協力いただきまして本当にありがとうございました。(心理学部 准教授 笠置 遊)

立正大学FD活動の詳細は、大学公式サイトより閲覧できます



RISSHO UNIVERSITY **FD News Letter Vol.28**

令和5年3月31日発行

編集発行：立正大学 全学教育推進センター

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

TEL：03-3492-6613 FAX：03-5487-3345 URL：<https://www.ris.ac.jp>